

学研映画

同和問題啓発用アニメーション

にんげんの詩

うた



●カラー／26分

16ミリ

¥180,000 No95126

VHS

¥ 47,000 No496898

●対象：中学校、高等学校、

一般

表示価格は、消費税抜きの価格です。

■教育映画祭 優秀作品賞 受賞

製作の意図

人間は、生まれながらに自由で平等です。そして、その差別の根源を追い求めて、時空を越えた、幻想的な旅をつづける姿を通して、現在も、わたしたちの周辺にまかり通っている差別が、いかにいわれのないものであるかを明らかにし、明るい未来を築くために、差別を解消していくことが、どんなに大切なことをじられたとしたら……？

この作品は、ふとしたことから、部落差別の問題に直面することになった、18歳の少女・ミツコが、

その差別の根源を追い求めて、時空を越えた、幻想的な旅をつづける姿を通して、現在も、わたしたちの周辺にまかり通っている差別が、いかにいわれのないものであるかを明らかにし、明るい未来を築くために、差別を解消していくことが、どんなに大切なことを浮ひあがらせようとするものです。

この作品の内容

○ 暗黒に、心音が響き、光の渦につつまれた胎児が迫ってくる。そして、その胎児は、やがて嬰児に変わり、幼児に変わり、少女から1人の美しい女性・ミツコへと変身していく。

○ ミツコは、恋人のマサオに会いに行くところ——その表情は、幸せそのものである。しかし、「人間は、誰もが、自由で平等に生きる権利をもっているが、もしもその権利が、踏みにじられたら——」という語りかけとともに、ミツコの顔は、しだいに曇っていく。

○ 実は、ミツコは、マサオが部落と関係があるらしいという理由で、両親から、その交際を止めるように迫られているのだ。しかし、部落について、全く知識のないミツコにとっては、その意味が分らない。

「部落?……部落っていったい、何? ねえ、お父さん、なぜ部落と関係のある人は、つき合ってはいけないの?」

ミツコの必死の問いかけに答える形で、画面は、いつしか江戸時代へと遡っていく。

○ 江戸時代へタイムスリップしたミツコが、まず、やってきたのは、ある城下町である。そこは、人々が、士農工商という厳しい身分制度に縛りつけられて生きる世界——その身分制度は、武士が、自分たちの10数倍の人数に及ぶ農民や町人を従えていくための政治の方針のひとつだったが、いつも武士の命令に絶対的に服従しなければならない農民や町人にとっては迷惑至極なものだった。そこで、ともすると起こりがちな、そうした農民や町人の不平不満をそらす役割を果たしたのが、士農工商のさらに下にもうけられた、穢多・ひだら非人という身分だった。

○ では、そのころ、穢多・ひだら非人の部落では、どんな生活が営まっていたのだろうか? ミツコは、つぎにある部落に入り、そのくらしぶりを見つめていく。

部落の人たちの住いは、ほとんどが、村やまちははずれの荒れ地や、河原、かけ下などといった、環境のきわめて悪い場所と決められていた。また、その仕事は、死んだ牛や馬を片づけたり、犯人を捕らえたり、処刑をしたり、といった人のいやがる仕事を、役目として押しつけられていた他……田畠を持つことが難しいので、農村などでは主に、手作業の賃仕事などをしてくらしを立てていた。そして、部落の人たちは、幕府の政治の方針で、たまたま、低い身分に位置づけられていたにもかかわらず、少しでも人間らしい主張をしようとすると、手厳しい目に逢わなければならなかつた。

○ 例えは……ある部落では、氏神様の祭礼にでかけ、神輿をかついでいた若者が、その身分をとがめられ、

袋叩きにあって殺された。部落では、代表を立てて、殺人事件として訴えでたが、その裁判の結果は、「穢多の命は、農民や町人の7分の1である。したがって、あと6人が殺されたら、1人の犯人を出すことにする…」という理不尽なものであった。

○ そんな事件を目のあたりにしながら、ミツコの疑問は、さらに深まっていく。「おかしいな。この話は、何百年も前の江戸時代のことでしょう! 身分制度なんて、とっくになくなっているはずなのに、なぜ、今も部落のことが問題になるのかしら?」……こうした、問い合わせを受けて、画面ではつぎに、江戸時代にはじまった部落差別が、現代にまで生き続けてきたその理由についての追求がはじまる。

○ 明治維新によって、日本は、近代国家として生まれ変わり、近代化の流れの中で、明治4年、身分解放令が出された。しかし、新政府によって、身分制度が改められたといっても、それは、あくまで制度の上だけで、少しも実体をともなわないものだったので、部落の人々への差別は続いた、その生活も、相変わらず厳しいものだった。

○ もちろん、部落の人たちは、黙って手をこまねいていたわけではなく、明治から大正へと時代が進む中で、自由と平等という、人間として当然の権利を求めて、立ち上る人々も現れてきた。そして、そうした人たちの運動は、大正11年3月3日の、全国水平社の創立へと結びつき、労働運動、農民運動、婦人解放運動などにつながる民主主義運動のひとつとして盛りあがつていった。しかし、やがて昭和に入ると、そうした部落解放運動も、軍部の台頭とともに、厳しい弾圧を受けるようになり、日本は、戦争への道をひたすら進むことになるのだった。

○ 昭和20年8月15日の終戦によって、日本は、全てを失った。しかし、この時から、日本は、自由と平等をもとにした、新しい憲法のもとに、真の民主主義を目指して歩みはじめた。

「……だから、おかしいのよ。人間は生まれながらに自由で平等であると決めた新憲法ができるから、何10年も経つというのに、今だに人を差別するなんて!」……ミツコの疑問は、さらに続いている。そして、現代の部落差別をはじめとする、さまざまな形の差別が、いかに理不尽なものであるかを鋭くえぐり出し、今こそ、明るい未来を築くために、1人1人が、差別解消のため、人権の問題に、真剣に取り組むべき時ではないか——と結んでいく。

■企画／財団法人 東京都同和事業促進協会

■製作／株式会社 学習研究社

■協力／東京都・東京都教育委員会

■製作スタッフ

製作 石川 茂樹

脚本・演出 福井 康雄

製作デスク 石川 泰正

動画演出 森田 浩光

原画 柳瀬 譲二

美術 阿部 行夫

演出助手 成川武千嘉

撮影 テイニシムラ

■キャスト

ミツコ 堀江美都子

父 小川 真司

母 杉山佳寿子

ナレーター 金内 吉男

他

お求めは……

24-04994 '88/7 美

回 '89/6

学研

情報機材事業本部

〒146 東京都大田区仲池上1-17-15

☎(03)726-8558